

11/21
赤旗

75歳以上医療費2割負担案

命守れ 反対運動強化へ

厚生労働省が、75歳以上の医療費負担を2割に引き上げる具体案を示したのを受けて、中央社会保障推進協議会などは、2割負担の導入阻止へ共同を広げてたたかう構えです。

すでに中央社保協と金日本年金者組合、日本高齢期運動連絡会は2割負担反対の署名運動に共同で取り組んで

きました。

負担増は受診抑制を引き起こし、生存権を奪かすと批判。社会保障財源は能力に応じた負担とし、大企業や富裕層に負担を求めるべきだとしていま

「自助」を押しつける菅内閣の本性があらわになったとして、世論と運動を広げていこうと呼びかけています。

年金が減らされ続けるなか、多くの低年金生活者、とりわけ高齢女性がパートなどの不安定な仕事に出て、なんとか生計を維持しています。「お金がないから」と受診をためらうことがあって良

いのぢょうか。まことに受診抑制を広げるのではないかと懸念します。長生きに対するペナルティーのようなもので、容認できません。

国は来年から年金額を減らそうとしています。介護保険改悪や消費税増税による負担も重く、これ以上の負担増は耐えられません。年金者組合は、2割負担に反対する署名を、コロナ禍のなかでも10万人近くから集めました。世論を広げれば、2割負担は食い止められます。年金者組合は取り組みの先頭に立って全力を尽します。

これまでに集めた署名を今国会に提出する予定で、国会内での集会や国会議員への要請にも取り組みます。

全日本年金者組合中央本部・加藤益雄副委員長の話 2割負担は、ただでさえ生活が苦しい年金生活者の

